

大スポ(号外)

週刊

いも焼酎の粹を求めて!

発表!

ファーストアルバム

世界の軍事兵器全撤廃!!

ノーベル平和賞への道々

号外

大泉スポーツ

DAISEN SPORTS

2019年 7月2日 (仏滅)

一年のちょうど真ん中の日

第00011号 気まぐれ特別版

4月上旬、「オレンジジュース」といふ決してプレミアムじゃない限定20枚のアルバムが、大山酒造蔵元から静かに生み出されていた事実が判明した。

豪華絢爛な業界人を集めたリリースパーティーもなく、TV局・新聞社向けの記者会見もなく、蝶の羽音のように静かに沈黙を竹で割ったより静かに世に出されていたそう……。

参加ミュージシャンは、千田竜也・チャーリーくん・T.A.I.G.A・濱走拓矢・ナガナカヤマ・よししー・大女優・スマイリー園田・聖子様・みやしー。(全10タイトル参加順記名)この全10名のうち5人が、大山酒造のメンバーであったそう……。

プロデューサーから直接オファーをされたお方とお知り合いを通じてオファーを受けたお方もいらしたそう。

参加報酬は、たったのセコセコ100円と完成アルバム1枚と後ほど訴えないでねといふお願いのみでみなさん首を傾げながら泣く泣く嫌々お受けいただけたそう。アルバム制作費は、町集落の区長報酬のポケットマネーで作られたそう。



「オレンジジュース」ジャケット写真 税込定価 200円

ただ今、在庫なし。追加プレス予定まったくなし。5年後にNYサザビーズオークションにて1枚5万ドルになると勝手に予想されています

ひよんなことからこのアルバムを手にした新進気鋭の現代批評家のケイスケ・ヤマモト氏が、このアルバムの存在の真相を探るためにプロデューサーT.A.I.G.A OYAMAに迫ったインタビューがこちら。

「本日は、お忙しいところ対談というインタビューをさせていただきありがとうございます。よろしくお願いします」(ケイスケ・ヤマモト氏 以下①)

「パコリ(T.A.I.G.A OYAMA 以下②)

「いやまあそうですね。蔵元さんからのアルバムは、業界お初なんじゃないでしょうか?」(ケイスケ・ヤマモト氏 以下③)

「私の記憶するところでは、ございませんよ」(「ふん」④)

「今回のアルバムタイトルは、オレンジジュースが好きだからというのは事実ですか?」(ケイスケ・ヤマモト氏 以下⑤)

「コンセプトといいタイトルごと様々な仕掛けや遊び心がシンプルかつ高等な技巧を散りばめていて流石だなと感じつつ、金沢の現代美術館を想い出されました」(「ふむ」⑥)

「これほど想像力をたくましくさせる作品は、出会ったことがございません」(「ふむ」⑦)

「紅白に出るような大御所歌手の方々にオファーしなかった意図は少なからずわかりますが、これだけ個性あふれるメンツでかためている人選のセンスとプロデューサー力に脱帽まくりで脱毛しそうになります」(「ふむ」⑧)

「全10タイトルを通して深層に平和で牧歌な楽しさを緊張感をもち続けて表現しつつ、その間、あいだに哲学的問答や形而上学的問いやアンニュイな洒落た気を微かに抑えた表現のワビサビがたまりません」(「ワサビ・カラン」⑨)

「そしてクライマックスで全人類に向けての警鐘と人間の馬鹿さ加減をあざ笑うようなとどめの一撃」(「ふむむ?」⑩)

「メジャーレベルと契約して全世界に発信するには、ご興味ございますか?」(「ない」⑪)

「もったいないというか……(5秒沈黙……)」(「ふむ」⑫)

「このアルバムの活動の広がり、いかにノーベル平和賞を受賞されるかと思われませんが、どうお考えでしょうか?」(「ふむ」⑬)

「歴史上のどの受賞者より、より平和的かつ人道的活動と思われませんか?」(「ふむむ」⑭)

「これまでの広報は、お酒の間屋さんのHPで少しばかりと南日本新聞にて『私の作品』コーナーの掲載だけでしょうか?」(「そう」⑮)

「もともとこのアルバムの存在を知ってもらわなくてはなりませんよ」(「ふむ」⑯)

「それでは長くなりましたが、今後の活動と次回作の予定は、何かございますか?」(「まあ気がついたら……」⑰)

「ぜひ気を付けて第2弾を作ってください」(「まあまあ」⑱)

ある情報筋によると、セカンドアルバムの製作に入っているんじゃないだろうか……といふまことしやかなおウワサがチラホラ……。

ノーベル平和賞への道は、遠し。ボチボチ